

私の生まれた家

中谷宇吉郎

青空文庫

私の郷里は、片山津かたやまづという、加賀かがの温泉地である。今は加賀市になって、国際観光ホテルもあり、近くに立派なゴルフ場もある。まるで昔日の面影はない。しかし私が生まれた頃は、北陸の片田舎の小さい部落であった。村ともいえないところで、本当の地名は、作見さくみ村あぎ字片山津小字砂走すなわせである。村の下の方、そのまた下の小字であるから、部落の大きさの見当はつくであろう。五十年の間に、小字から四段とびをして、市になったわけである。小字時代の片山津は、片側が薬師山やくしやま、今一方の片側は、柴しばや山まがた潟まがたという湖にはさまれた、一本道の村落であった。私の家は、呉服雑貨店をやっていて、湖側にあった。前は、一本道路に面し

た店舗てんぽになつていて裏庭は湖に面していた。

家はもちろん旧式の木造で、二階は格子こうしのはまった部屋になつていたが、下はかなり新式に改造されていた。この土地では、まあ大きい店であつた。雑貨部は、広い土間にしてあつて、その中に、硝子ガラス張りの陳列箱が並べてあつた。いろいろな土産物だの、花かんざしなどが、この陳列箱の中に並んでいるのが、美しかった。

呉服部は、腰こし高だかの 畳たたみ敷じきで、普通のお客は、畳に腰かけて買物をする。しかし反物などを買う客は、畳敷の上にあがり込む。そしていろいろな反物を、畳の上に拡げて、品定めに、一時間も二時間も坐すわり込んでいた。三十畳敷近くもあつたと思うが、

二、三人のそういう客に坐り込まれると、店いっぱい、反物が並べられて、その間をぬって歩くのが、たいへんだった。反物を踏んで叱しかられるのは、毎日のことであつた。

父はハイカラ好きであつて、呉服部の一部にショー・ウインドーをつくつた。幅一間いっけんちよつと、深さ四尺しやくくらいの小さいウインドーであつたが、出来たときは、非常に珍しがられて、付近の村の人が見に来たくらいであつた。

この頃でも、北海道の奥地へ行くと、こういう店屋を見ることがある。北海道の村というのは、非常に広く、中には、神奈川県よりも広い村もある。そういう村には、一場所、中心地があつて、それを市街地といっている。この市街地の中に、都会のデパート

の役目をしている店屋が、一つくらいは必ずある。そういう店を見ると、私はよく子供の頃を思い出す。

住居は、裏にあつて、板敷の台所で、つながっていた。この台所は、食堂も兼ねていて、広さは、二十畳敷くらいもあつたであろう。真ん中に大きい食卓があり、食事のときだけ、その周囲をぐるりとかこんで、莫^ご薩^ざを敷く。家族や店の人たち、それに女中を入れて、十四、五人の大家内であつたが、食事のときは、一人か二人店番を残して、あと全員が、この板敷の莫^ご薩^ざに坐つて、一緒に食事をした。家中のものが、皆同じものを食うということを、父は自慢にしていた。もつとも、食事は、今から考えてみれば、ずいぶん粗末なものであつた。店になつてい^{おも}や主家の二階の一部

に、十畳と八畳とがつづいた座敷があつた。ここには縁側もついでいて、家で一番立派な部屋であつた。しかしこれは客間であつて、使うことは、滅多になかつた。

二人の男の子が、一人は物理学をやり、今一人は、考古学をやることになつたので、この家は、とつくに人手に渡してしまつた。まだ家は残っているが、すっかり模様換えをしたので、今は昔の姿もない。それにしても、私も弟も家とはずいぶん縁の遠い商売になつたものである。

（昭和三十六年四月一日）

青空文庫情報

底本：「中谷宇吉郎随筆集」 岩波文庫、岩波書店

1988（昭和63）年9月16日第1刷発行

2011（平成23）年1月6日第26刷発行

底本の親本：「中谷宇吉郎随筆選集3」朝日新聞社

1966（昭和41）年

初出：「朗」

1961（昭和36）年4月1日

入力：門田裕志

校正：川山隆

2013年1月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

私の生まれた家

中谷宇吉郎

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>